

活動ノート



3月22日(日)

アカマツ林整備

(除伐と地掻き)

9:30~15:45

◆参加者: 松雪、雪丸、川上、新地、榊、鎌田、岩尾、吉田、丸山、首藤、鈴木(体験)、橋本(体験)、久保(体験) 計13名



◆内容: 今日の作業は、C地区での地掻きと除伐、及びヤードの新設が終わったF地区での除伐です。作業内容や注意事項等の説明の後、C・F地区の二班に分かれての作業を行いました。

C地区作業班は地掻きから始めました。シダ自体は比較的小さいものがほとんどでしたが、落ち葉が厚く堆積しており、また斜面の下の方には灌木や大きなシダが密生していたため、ややてこずりました。午後からは径10~20cm程度のハマセンダンやウリハダカエテなどの伐倒を行いました。伐倒後はヤードでの枝処理など、2時20分頃にはC地区でのすべての作業を終え、F地区の作業手伝いに移動しました。

F地区の作業班は、作業エリアが急斜面で、かつ狭いため、5名の精鋭で除間伐を行いました。今日の大きな目標は、新ヤード横に立っている径20~30cm前後

のコナラやスタジイの伐倒でしたが、その周囲に10cm以下のリョウブなどの灌木が密生していたため、まずはこれらをすべて除伐することにしました。午後までかかる作業とはなりましたが、最終的には20本以上の灌木の伐採を行うことができました。そして最後は、当初目標のコナラなどの伐倒です。急斜面での大径木の伐倒で、体力的にかなり厳しい作業となりました。このF地区での作業は伐採量が極めて多く、またコナラの伐倒に3時近くまでかかったため、材処理をすべて終わることができず次回に持ち越しました。

両作業班とも急斜面での作業となり、また気温もやや高かったため体力的にかなりキツイ作業となりましたが、けが等もなく無事に予定以上の作業を終えることができました。

【ふりかえりより】

•今日は受け口を一人で伐ってきつかったです。達成感がありました。(雪丸)

4月4日(土)

アカマツ林整備

(除伐と地掻き)

9:30~15:45

◆参加者: 松雪、榊、吉田、雪丸、新地、静間、岩尾、橋本、鎌田、小川R 計10名

◆内容: 前日の雨で地面がすべりやすくなっているため、予定していたC・F地区の急斜面での作業は危険性が高いと考え、A地区東



側及びE地区遊歩道沿いの平坦地や緩傾斜地において除間伐作業を行うことに変更しました。

A地区では、遊歩道の山側尾根部にある直径35cmのコナラを、葉が茂る前に除伐することとしました。リーダーの指揮の下、コナラ周辺の下草刈りや掛かり木になりそうな灌木の除伐、ロープ掛け等を行った後、安全な伐倒手順に従い受け口切りに着手しました。このコナラは大木であるとともに、高さ1.8m付近のところで大きな幹がY字型に枝分かれしていたため、掛かり木しない方向に倒すのが難しい木でした。そのため、受け口切りに午前中一杯かかり、追い口切りは午後からの作業となりました。受け口が通常よりやや大きかったこともあって、追い口切りは順調に進み、ぴったり予定通りの方向に伐倒することができました。

E地区では、遊歩道沿いに点在している直径10~15cm前後のクロキやネズミモチ、ネジキなどを6~7本程度除伐しました。この班では、新会員や若手の活躍で、当初予定以上の量の除伐を行うことができましたが、除伐量が多かったこと、また前回3月22日の残材が多く残っていたこと

から、材処理にはかなり手間取ってしまいました。作業終了まで天候が何とか持ったこともあって、除伐作業自体はほぼ順調に進みました。その結果、コナラがあった付近の斜面は大きな空間が開け、陽が降り注ぐ環境となりました。

【ふりかえりより】

・たくさんの木を伐らせてもらいました。良い疲労感でした。(新地)

4月25日(土)

カブトムシの森作業

(除伐とササ・萌芽枝の除去)、
植生調査

9:30~15:30

◆参加者: 吉田、雪丸、首藤、丸山、藤本、今林、知念、村山、新地、橋本、岩尾、新牛込夫妻・清成、岩田親子、川上、柴戸、鎌田、篠原、静間 計21名



◆内容: 当初の伐採目標はタブノキとホオノキでしたが、共に直径25センチを超える難しい木で、安全に伐倒できる会員が少なかったことから、ホオノキは次回以降に回すことにして、伐りやすいものを4本(クヌギ3本、タブノキ1本)伐倒しました。午前中は3班に分れてタブノキの伐採、草刈り、植生調査を行いました。伐採班は若者を中心に作業を進めて伐倒とその後の処理を行いました。

草刈り班は休憩小屋前の散策

路北側で常緑広葉樹の萌芽枝・実生、ササなどを主に剪定バサミで刈っていきました。今回初めてコシアブラの実生を3本確認しました。リョウブなどに覆われた日陰部分で立派なツクシショウジョウバカマが数株確認できました。

植生調査班は会員3名とセンター2名の計5名。まずは継続調査している10m×10mの区画にビニールひもを張り、それをさらに4つ(5m×5m)に分けることから始めました。出来上がったところで4つの調査区のそれぞれで、花・蕾・果実のある種名とその被度を記録しました。

午後は植生調査班も作業班に合流し、伐採と草刈りを行いました。森会初参加の高校生4名には伐倒体験をして貰うため、クヌギの間伐と材処理をしました。伐採班は計画していたホオノキに代えてクヌギ劣勢木とタブノキの小物を伐りました。とは言っても伐倒方向が難しいのでロープを使っての本格的な作業でした。草刈り班は湿地上方の斜面部分で作業を行うと共に、伐倒木の材処理にも参加しました。

【ふりかえりより】

・新緑のなか、気持ちの良い活動ができました。(川上)

5月10日(日)

アカマツ林整備(除伐)

9:30~16:00

◆参加者: 松雪、榊、岩尾、吉田、山本、雪丸、新地、知念、毛利、杉山、橋本、鎌田、川上、川内、岩田、吉田 計16名

◆内容: 道具準備や準備体操などを終え、10時すぎからC・F地区の2班に分かれて作業を開始



しました。今日の作業は両班とも広葉樹の除伐がメインです。

C地区では、急斜面下部のアカマツ成木回りやB・C地区境界付近に、ヤブ状に繁茂していた灌木や直径10~15cm前後のヤマハゼ、ネズミモチ、リョウブなどの広葉樹を10本近く除伐しました。また、C地区東側からD地区の遊歩道下部斜面でのシダ刈りや灌木の除伐も併せて行いました。その結果、C地区斜面下部のアカマツ成木や、B地区方向のアカマツ群落らしい景観などを見通せることができました。

F地区では、4月4日に引き続き東端部の急斜面で日陰を作っているスダジイなどの大径木(直径25~30cm)を伐倒するのが主目的ですが、伐倒時の掛かり木を防ぐとともに、斜面下部のアカマツ成木回りに繁茂している広葉樹の除伐のために、まずは斜面下部の径10~20cm前後クロガネモチなどの広葉樹を伐り倒しました。作業場が急峻なすべりやすい斜面ということもあって、安全に気を付けながらの難しい作業でしたが、時間内に無事に終わることができました。

【ふりかえりより】

・今日は木を2本切れて良かったです。木や花の名前と特徴を教えてくださいととても勉強になりました。(知念)

5月24日(土)
アカマツ林整備(除伐)
9:30~16:00

◆参加者:松雪、榑、橋本、雪丸、丸山、吉田、井上、今林、鎌田、岩尾、国広、川上、静間、新地、鈴木、平嶋(体験) 計16名

◆内容:今回も参加者の集合が早く、ほぼ定刻にミーティングを始め、道具準備や準備体操などをほぼ予定通りに終え、10時過ぎからC・E地区の2班に分かれて作業を開始しました。今日の作業は、両班とも前回に引き続き広葉樹の除間伐がメインです。

C地区では、シダ刈りや直径10cm以下のネズミモチなどの除伐、それとC・D地区境界付近で大きな日陰を作っていた径25cm前後の大きなユズリハの間伐を行いました。両箇所とも急斜面で、一部では崖に近いような地形になっており、シダ刈り班はまさに人の姿が埋もれて見えないような状況での作業となりました。ユズリハ班は、新会員や体験参加者の研修を兼ねての作業となり、また周辺に林立していた小径木の除伐も必要だったため、結構気を遣う大変な作業となりました。これらの作業は14時過ぎにはほぼ終了し、D地区からB地区方向を見るとまさにアカマツ林ということを実感できるすっきりとした景観になりました。

一方、E地区では、5月10日の作業に引き続き、E・F地区境



界付近で大きな日陰を作っているクスノキ、タブノキの大径木(直径25~30cm)を伐倒しました。ここでも、大径木の除伐に先立ち、掛かり木を防ぐとともに、伐倒木の材処理・搬出をしやすいように、その周辺に繁茂しているリョウブなどの灌木の伐採をまず行いました。これらはすべりやすい急峻な斜面での作業となり、安全作業や残材の搬出(引き上げ)が極めて大変でした。残りの時間では、径30cm以上のタブノキを伐倒しました。時間は既に14時近くになっており、間に合うかどうか不安はあったのですが短時間で無事に作業を終えることができました

【ふりかえりより】

・急斜面での作業でしたが、怪我も無くかなりの作業が出来て良かった。(静間)

6月14日(日)
カブトムシの森作業(草刈)
9:30~15:30

◆参加者:静間、榑、岩尾、松雪、橋本、川内、国広(信)、富永、岩田、岩田(共)、鎌田、中嶋、雪丸、吉田、今林、知念、村山、毛利、柴戸、新地 計20名

◆内容:今回はA地区の草刈りを完了することを目標に、時間があればB地区の遊歩道沿いも行うというものです。作業開始前に、調査担当から依頼のあった残す樹種、草本などの確認を現地で行い、念のため幾つかは杭で標識としました。人数が多かったので万遍なく展開して作業ができました。初めての試みとして、飼育小屋南側にはびこり始めたヒメヒオウギズイセンを根こそぎ除去する作業を中心に行いました。小



さな塊根が沢山あって大変でしたが、45リットルの大きなゴミ袋4個が一杯となって、目につくものはなくなりました。

午前中で8割程度まで作業が進んだので、午後はB地区全体に範囲を広げました。こちらでもササやイタドリが目立っていましたが、昨年までの作業の効果がサイズはかなり小ぶりになっていました。また、遊歩道脇の草刈りと竹熊手での清掃も行ったので見違えるように歩きやすくなりました。

14時半過ぎには作業を終了して、道具の確認と現地での振り返りを行って引き揚げました。作業量が多かったため、最後はかなり皆さんお疲れの様子でしたが、ケガや熱中症、ハチなどによる虫刺されもなく安全にプログラムを終了できました。

【ふりかえりより】

・草刈りのとき、カマを石に当たらない様に注意が必要です。(国広)

・午前中のヒメヒオウギズイセンの除去が一番大変だったけれど、きれいにすることができたので良かったです。(今林)

